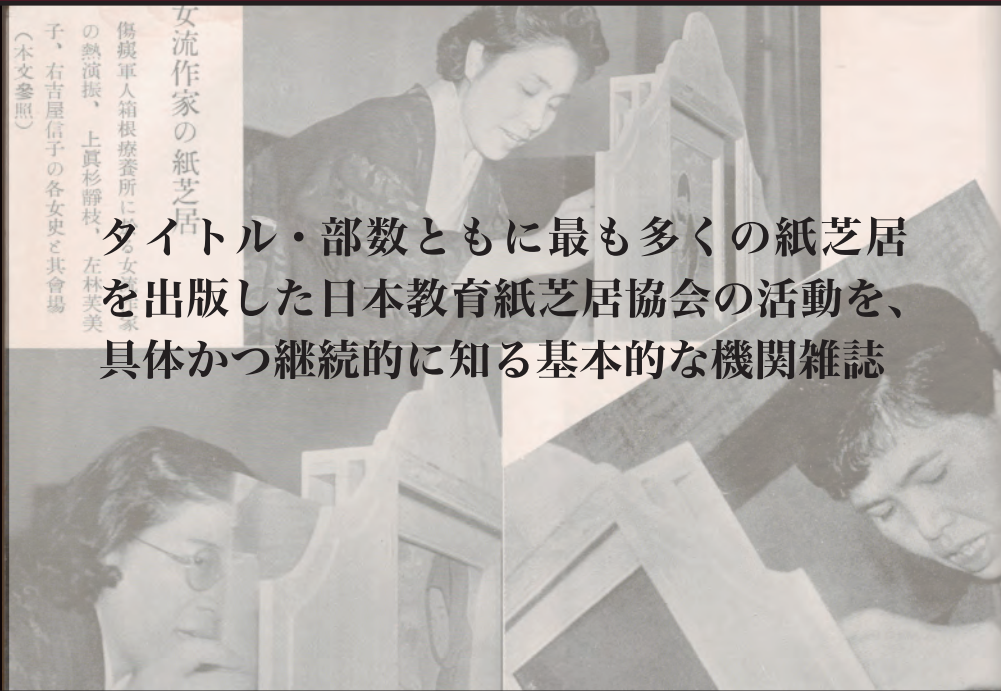


雑誌『教育紙芝居』・『紙芝居』

—1938～50年—

全十一巻……全四回配本【編集復刻版】

紙芝居が国策化される過程とその内実が明らかにされ、広く戦中期の文化・宣伝・メディア等の研究にとり、本書が大きな意義を持つ。



タイトル・部数ともに最も多くの紙芝居を出版した日本教育紙芝居協会の活動を、具体かつ継続的に知る基本的な機関雑誌

女流作家の紙芝居
傷痍軍人箱根療養所に、女作家の熱演振、上真杉静枝、左林美美子、右吉屋信子の各女史と其會場
(本文参照)

近代日本において独自の発展をとげたメディア・紙芝居。



発行所 日本教育紙芝居株式会社
東京市京橋區橋西四ノ一
電話東京一〇〇八〇番

作品名 原 価

大政翼賛	1.70
常會の手引	1.90
戦争してゐるもの	2.00
家庭防空陣	2.20
往來御用心	2.60
スパイ御用心	2.00
安樂傳授所	1.90
關東大震災	2.40
妻は死なな	2.40
安子の修行	2.00
青(あせい)の鞋	1.80
無名の民	1.90
吉祥庵毛	2.10
獅子の仲裁	2.00
しはられ地蔵	2.00
うづら	2.50
母は漫才師	2.20
王様とうぐす	2.40
虎造くづ	2.30



全日本教育紙芝居運動

紙芝居とは、紙を舞台とし、人形を動かして演じる。これによって、子どもたちは、遠くの世界や、過去の歴史、未来の理想などを、身近に感じることが出来る。また、紙芝居は、子どもたちの想像力を刺激し、情操を陶冶する効果がある。本協会は、紙芝居の普及と発展を目的として、全国各地で紙芝居の上演を奨励し、紙芝居の制作を支援している。

協 會 當 面 會 業 事 の

今年一年の製作
今年中の講習
紙芝居の普及と発展を目的として、全国各地で紙芝居の上演を奨励し、紙芝居の制作を支援している。

出品作

命の釣竿
ペンガルの槍騎兵
人生案内
みんご

紙芝居とは、紙を舞台とし、人形を動かして演じる。これによって、子どもたちは、遠くの世界や、過去の歴史、未来の理想などを、身近に感じることが出来る。また、紙芝居は、子どもたちの想像力を刺激し、情操を陶冶する効果がある。本協会は、紙芝居の普及と発展を目的として、全国各地で紙芝居の上演を奨励し、紙芝居の制作を支援している。



戦時下、膨大な数のひとびとが紙芝居を観た。「昭和十七年中の全国の紙芝居刊行種類が三百種、一部平均二千部として六十万部、一作品が仮に千人に見せられたとするとこの延人員六億」人。

(紙上峰次「紙芝居実演講座」、一九四四年)

戦時下、膨大な数のひとびとが紙芝居を観た。昭和十七年中の全国の紙芝居刊行種類が三百種、一部平均二千部として六十万部、一作品が仮に千人に見せられたとするとこの延人員六億人。



● 編者のことば

日本教育紙芝居協会の活動を明らかにする基本的な機関雑誌、欠号部分を「新発見」

松永健哉は、東京帝国大学セツルメント児童部で校外教育に従事する中で、一九三三(昭和八)年、仲間とともに児童問題研究会を組織した。この児童問題研究会の活動から生み出された紙芝居作品『人生案内』が教育紙芝居の源流である。

翌一九三四年、大学を卒業した松永は、小学校教員になるとともに、自宅に校外教育研究所を設けて、謄写版印刷による紙芝居作品の頒布を開始した。同時に自らの教室内における教育実践の中で紙芝居を活用することによって、紙芝居の可能性を拡張するとともに、「教育の武器としての紙芝居」という確信を深め、その普及に力を傾けていった。

松永は一九三七(昭和十二)年四月、新たに日本教育紙芝居連盟を結成して本格的な紙芝居の普及に乗り出し、さらに翌一九三八(昭和十三)年七月にはそれを日本教育紙芝居協会に発展させた。同協会の機関誌が、今回ここに複製された『教育紙芝居』とその改題誌「紙芝居」である。

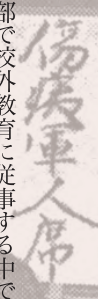
日本教育紙芝居協会は、一九四五(昭和二十)年八月十五日のアジア・太平洋戦争敗戦時まで存続して同年十二月に解散したが、翌年二月にはその流れをくむ日本紙芝居協会が新たに組織された。そして同協会は、日本教育紙芝居協会機関誌「紙芝居」の巻号を継承した機関誌「紙芝居」を刊行した。この継承誌も今回の複製に加えた。

日本教育紙芝居協会は、アジア・太平洋戦争にともなう戦争国策に荷担することによってその活動を飛躍的に発展させたことは、疑う余地のない歴史的事実であり、その戦争責任は明白である。しかし、同協会が世に送り出した紙芝居作品のすべてが、いわゆる国策紙芝居だというわけではない。現代的な評価に耐えうる作品も少なからず存在している。また、街頭紙芝居がほぼ姿を消した今日においても、保育所・幼稚園など幼児保育の現場や公共図書館をはじめ、印刷紙芝居は一つのメディアとしてさまざまな場面で活用されているが、そうした現在の紙芝居が抱えている要素(内容・形式・表現・実演技術など)は、過去にさかのぼるとほとんど日本教育紙芝居協会の実践にたどりつくものである。その意味では、今日において紙芝居について語る際には、同協会の功績を抜きにすることはできない。

これまでの日本教育紙芝居協会に対する評価は、もっぱら刊行された紙芝居作品の内容を通して検討されることが多かった。ところが、協会の活動を具体的かつ継続的に知るための資料としてもっとも重要な機関雑誌については、所蔵も限られ、それらすべてを合わせても発行されたものの極小部分に過ぎない状況が長く続いていた。今回あらたな雑誌欠号部分の出現により、本書の刊行が可能となった。今後、紙芝居・児童文化・メディア史研究の基礎資料として大きな成果をもたらすことが期待できる。

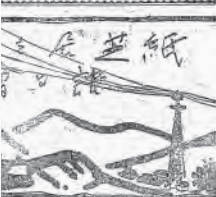
〔本書収録「解題」より増補改訂〕

紙芝居は人々の心に響く。行く。紙芝居は人々の心に響く。行く。紙芝居は人々の心に響く。行く。



浅岡 靖央

作品名	櫻
キツネノゲントウ	天狗の旗
日浦御産紙	



移動
時間 交通 場所 中原克史氏

紙芝居の歴史
紙芝居は、古くからある娯楽形式の一つである。戦前には、戦時体制下の教育手段として、戦後には、復興のシンボルとして、紙芝居は、日本人の生活に深く根ざっている。紙芝居の歴史をたどると、日本の文化史をたどるのと同じである。紙芝居の歴史は、紙の歴史でもある。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。

紙芝居目次 第一巻 新年號

- 紙芝居自叙傳 松永健哉
- 紙芝居質問應答 松上幸次
- 紙芝居文化新建設序説 松田金太郎
- 大東亞戦争と紙芝居 大島正徳
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(一)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(二)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(三)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(四)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(五)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(六)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(七)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(八)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(九)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十一)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十二)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十三)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十四)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十五)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十六)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十七)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十八)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(十九)
- 紙芝居の脚本 紙芝居講座(二十)

紙芝居講座(一)

紙芝居の歴史
紙芝居は、古くからある娯楽形式の一つである。戦前には、戦時体制下の教育手段として、戦後には、復興のシンボルとして、紙芝居は、日本人の生活に深く根ざっている。紙芝居の歴史をたどると、日本の文化史をたどるのと同じである。紙芝居の歴史は、紙の歴史でもある。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。

津文化協会と紙芝居班

津文化協会と紙芝居班
津文化協会は、戦前には、戦時体制下の教育手段として、戦後には、復興のシンボルとして、紙芝居は、日本人の生活に深く根ざっている。津文化協会の歴史をたどると、日本の文化史をたどるのと同じである。津文化協会の歴史は、紙の歴史でもある。紙の発明は、津文化協会の歴史を大きく変えた。紙の発明は、津文化協会の歴史を大きく変えた。紙の発明は、津文化協会の歴史を大きく変えた。



策居芝

● 推薦文
せめぎあう国策性／芸術性／娯楽性
『教育紙芝居』・『紙芝居』の「実践」の解明にむけて
真鍋 昌賢

紙芝居は、一九三〇年代に都市部の街頭を中心にひろがっていったことはよく知られている。紙芝居は、子どもたちを空想の世界にいざない、くぎ付けにしてしまう新興メディアだった。

この街頭芸がもつ上演の力を、教育・保育などに取り込んで、新しい方向で活用しようとしたのが、「教育紙芝居」というジャンルだった。「教育紙芝居」の主導者たちは、自分たちの考える有益な教化手段を生み出すために、紙芝居のもつ潜在的な可能性を把握しようとしていた。上演の力は何のような条件のもとに発揮されるのか、成功／失敗とどのような批評されるべきか、子どもから大人へと受け手の対象とひろげていくにはどうすればよいか、国策と結びつける際の留意点とは何か……などといったさまざまな「実践」上の課題が見出されていく。

『教育紙芝居』・『紙芝居』は、こうした先端的な議論の場として刊行されたのである。これらの資料的意義とは、ひとつには、上演をめぐる思想・理論・方法論の内実を、詳細に知ることができるという点にある。一誌を時間軸のなかで比較検討していくことで、「教育紙芝居」とは、どのようにそれらを形成し、また変容させていったかが明らかになるだろう。

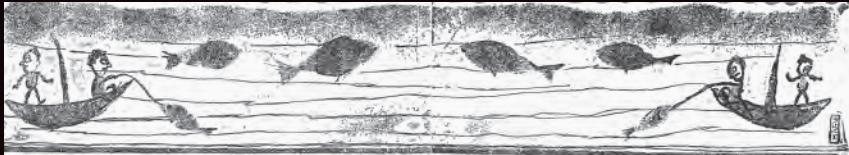
その一方で、もうひとつの資料としての魅力は、「実践」報告の豊富さにある。演者自身による長めの記事もあれば、編集部でまとめた短い断片的な記事もあるのだが、実際の上演現場をうかがい知ることができるひとつひとつの記事は、希少な価値をもっている。演者／観衆・聴衆の関係性についての歴史的研究は、とにかく資料面での困難がつきまとう。それを考えると、ひとつのジャンルの報告記事が濃密に集められているという点からして、『教育紙芝居』・『紙芝居』は、またとない研究材料なのである。文献資料から上演文化をあぶりだす研究方法論を、紙芝居研究という枠をこえて議論するうえで、『教育紙芝居』・『紙芝居』は、たいへん利用価値が高いと言っていよう。

重要なのは、「教育紙芝居」というジャンルが、いかにして時代の要請を受け、国策という「大義」をかけたながら拡張していったのか、という視点である。また、社会をまなざす知識人の思想が、保育・教育を媒介して、紙芝居と出会い、さらには戦争、国策と共振していったのかといった関心から見ると、紙芝居と出会い、「教育紙芝居」というジャンルは、総力戦下の時局に敏感に反応していったことが知られる。その点では、国策に寄り添った方向性を二元化してとらえてしまいがちである。しかし、今回の復刻でむしろ期待されるのは、個別の報告からうかがえる多様な「実践」の比較検討ではないだろうか。都市／地方の差異、場に応じた上演の特徴、個々の演者の取り組みなど、そうした差異は、ともすると微細なものとして看過されがちだが、むしろそこから「実践」をめぐる理論と現場の折衝がよみとれることになるだろう。

今回の復刻は、戦時下の娯楽受容の研究という大きな課題を、学問分野を横断し共有するうえで、意義深い。戦時下の地域社会の実態に迫る資料として、大衆芸能が国策性、芸術性、娯楽性のあいだでどのように翻弄されていったのかを知る資料として、芸能史、近代史、歴史社会学、民俗学、口承文芸研究などの多様な分野から読まれていくことを期待したい。

(まなべ まさよし／北九州市立大学文学部准教授)

「教育紙芝居」というジャンルがいかにして時代の要請を受け、国策という大義を掲げながら拡張していったのか？
社会をまなざす知識人の思想が保育・教育を媒介して紙芝居と出会い、さらには戦争、国策と共振していったのか？



紙芝居の歴史
紙芝居は、古くからある娯楽形式の一つである。戦前には、戦時体制下の教育手段として、戦後には、復興のシンボルとして、紙芝居は、日本人の生活に深く根ざっている。紙芝居の歴史をたどると、日本の文化史をたどるのと同じである。紙芝居の歴史は、紙の歴史でもある。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。

紙芝居の歴史
紙芝居は、古くからある娯楽形式の一つである。戦前には、戦時体制下の教育手段として、戦後には、復興のシンボルとして、紙芝居は、日本人の生活に深く根ざっている。紙芝居の歴史をたどると、日本の文化史をたどるのと同じである。紙芝居の歴史は、紙の歴史でもある。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。紙の発明は、紙芝居の歴史を大きく変えた。

● 推薦文

遺志の継承、そしてその先へ

加藤 理

紙芝居研究は、本来ならこの十年の間に飛躍的に発展して来たであろう。その担い手の中心は、『紙芝居の歴史』(一九九七年、久山社)を出版して教育紙芝居の歴史をまとめた上地ちづ子氏だったはずである。だが、上地氏は二〇〇〇年十一月に逝去し、紙芝居研究の進展は後進に委ねられることになった。

上地氏は「教育紙芝居は浅岡さんに、街頭紙芝居はあなたに研究を受け継いでほしい」と遺言のように私たち二人に後を託して天に召されていった。筆者が生来の怠惰から街頭紙芝居研究を進展させなかつたのに対し、浅岡氏は上地氏との約束を果たすべく教育紙芝居に関心を寄せ続けてきた。そして今回、教育紙芝居研究の橋頭堡となりうる雑誌『教育紙芝居』・『紙芝居』の復刻を行うこととなった。

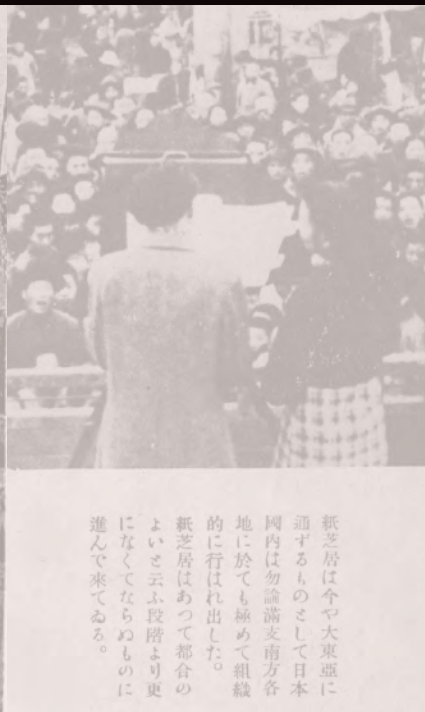
今回の復刻事業を実現した浅岡氏の仕事は、上地氏との約束を果たすと同時に、上地氏が成し遂げえなかつた仕事を受け継いで、さらにその先に進めたものであることは言うまでもない。

児童文化は資料的な制約もあり、十分に研究が発展して来たとは言いがたい。紙芝居研究もその例外ではなかつた。だが、今回の復刻により、紙芝居研究は児童文化研究者のみならず、教育学や保育学、社会学など多領域の研究者の手によって飛躍的に発展していく契機を得ることとなった。

これだけの資料が手元になれば、紙芝居の解明は飛躍的に進展し、上地氏をはじめとする児童文化研究の先人たちが成し得なかつた成果を得ることができるはずである。

遺志を受け継ぎ、そしてその先の研究へ。今回の復刻によって紙芝居研究、そして児童文化研究が一段と発展することを願ってやまない。

(かとう おさむ／東京成徳大学子ども学部教授)



紙芝居は今や大東亞に
通ずるものとして日本
国内は勿論滿支南方各
地に於ても極めて組織
的に行はれ出した。
紙芝居はあつて都合の
よいと云ふ段階より更
になくてならぬものに
進んで來てゐる。

当初から文化国策への積極的な参加を目的とし、活動もすべての年齢層を対象に、日本国内に加えて植民地・占領地など、広く外地にまで展開。



日獨紙芝居交際

八月十日(日)午後二時—五時
会場 日本紙芝居協会 東京本部
主催 日本紙芝居協会 東京本部
共催 日本紙芝居協会 東京本部
協賛 日本紙芝居協会 東京本部

朝鮮の紙芝居

佐本 秋夫

朝鮮の紙芝居は、我が國の紙芝居と異なり、その歴史は古く、その形式も多岐にわたる。本稿では、朝鮮の紙芝居の歴史と現状について、詳しく紹介する。

滿洲の紙芝居

四川 益吉

滿洲の紙芝居は、我が國の紙芝居と異なり、その歴史は古く、その形式も多岐にわたる。本稿では、滿洲の紙芝居の歴史と現状について、詳しく紹介する。

紙芝居の語り手座談会

決戦下に於ける紙芝居の語り手座談会

語り手 佐本 秋夫、四川 益吉、上地 ちづ子

座談会 八月十日(日)午後二時—五時

朝鮮の講習

八月十日(日)午後二時—五時

会場 日本紙芝居協会 東京本部

主催 日本紙芝居協会 東京本部

臺灣航路

種子 昌一

臺灣航路の発展と紙芝居の普及

北斗星は流水の碎片だといふ

間宮海峽は暗々と沫なく
雪は太古より寂かである。

北斗星は流水の碎片だといふ
間宮海峽は暗々と沫なく
雪は太古より寂かである。

臺灣航路

種子 昌一

臺灣航路の発展と紙芝居の普及

談 鼎

紙芝居と文学

紙芝居は、戦後、児童福祉施設で盛んに行われてきた。その目的は、児童の情操を陶冶し、知識を授け、社会生活の準備をさせることにある。戦前、戦中、戦後の紙芝居の歴史を振り返る。昭和十三年、紙芝居の普及を目的として、紙芝居協会が設立された。戦時体制下では、紙芝居は戦意鼓舞の手段として利用された。戦後は、児童福祉施設を中心に、紙芝居は児童の教育の重要な手段として位置づけられた。紙芝居は、児童の心を捉え、社会生活の準備をさせるのに効果的である。紙芝居は、児童の情操を陶冶し、知識を授け、社会生活の準備をさせるのに効果的である。紙芝居は、児童の心を捉え、社会生活の準備をさせるのに効果的である。

昭和二十二年 文部大臣賞授賞

街頭紙芝居コンクール

主催：日本紙芝居協会

街頭紙芝居の展望

紙芝居が、どのように発生し、発展してきたかという点のなかから、紙芝居の今後のありかたを見出すべく、加太こうじが、街頭紙芝居の展望について述べている。紙芝居は、戦前、戦中、戦後の歴史を振り返る。昭和十三年、紙芝居の普及を目的として、紙芝居協会が設立された。戦時体制下では、紙芝居は戦意鼓舞の手段として利用された。戦後は、児童福祉施設を中心に、紙芝居は児童の教育の重要な手段として位置づけられた。紙芝居は、児童の心を捉え、社会生活の準備をさせるのに効果的である。紙芝居は、児童の情操を陶冶し、知識を授け、社会生活の準備をさせるのに効果的である。紙芝居は、児童の心を捉え、社会生活の準備をさせるのに効果的である。

紙芝居とピク

児童福祉施設の最良の教材

児童福祉施設の最良の教材として、紙芝居が注目されている。紙芝居は、児童の心を捉え、社会生活の準備をさせるのに効果的である。紙芝居は、児童の情操を陶冶し、知識を授け、社会生活の準備をさせるのに効果的である。紙芝居は、児童の心を捉え、社会生活の準備をさせるのに効果的である。

街頭紙芝居 打明話

紙芝居の歴史と現状

紙芝居の歴史と現状について述べている。紙芝居は、戦前、戦中、戦後の歴史を振り返る。昭和十三年、紙芝居の普及を目的として、紙芝居協会が設立された。戦時体制下では、紙芝居は戦意鼓舞の手段として利用された。戦後は、児童福祉施設を中心に、紙芝居は児童の教育の重要な手段として位置づけられた。紙芝居は、児童の心を捉え、社会生活の準備をさせるのに効果的である。紙芝居は、児童の情操を陶冶し、知識を授け、社会生活の準備をさせるのに効果的である。紙芝居は、児童の心を捉え、社会生活の準備をさせるのに効果的である。



▲ 妙高寺境内 (本町) (昭和30年12月4日)

戦後に活動を継承した、日本紙芝居協会の実態が解明されることにより、戦中と戦後における文化の連続と非連続という問題にも大きな手がかりを提供。

戦後に活動を継承した、日本紙芝居協会の実態が解明されることにより、戦中と戦後における文化の連続と非連続という問題にも大きな手がかりを提供。



「小サイ傳令使」 國語讀本巻八に取材 第一十六巻 せる教材用紙芝居

刊行の紙芝居作品と合わせて検討することにより、児童文学・文化史や児童出版美術史にも寄与。

刊行の紙芝居作品と合わせて検討することにより、児童文学・文化史や児童出版美術史にも寄与。

推薦文

『雑誌「教育紙芝居」・「紙芝居」——1938〜50年』復刻版の貴重な意義と、児童問題研究の宝としての存在

加古 里子

写し絵・錦影絵に始る寄席芸は、歌舞伎劇の立絵人形で、大人の観客に受けていたが、活動写真の影響から街路野外的場への移動となり、それにより平絵の形態と児童観客をうみ街頭紙芝居の製作・配給・実演の組織を生じた。しかし教育文化の視点から改良矯正する識者の運動が起り、軍国化と大陸進出をねらう当局は、大衆指導の一策として優遇した。

本資料の出版はこうした識者運動の昭和十三〜二十五年に至る機関誌復刻で、極めて貴重な、得難い労作の賜である。その任に当られた浅岡氏の解説課題で述べられている如く、「戦争責任は明白」で、並いる諸文化活動の中、唯一紙芝居が極東軍事裁判の租上にはのぼつたいきさつを裏書する事ができる。

筆者はこの資料の終る昭和二十五年、子ども会での技術指導の爲、紙芝居講習会に参加、佐木秋夫、堀尾勉、稲庭桂子、加太こうじ等の先達の指導を受けたが、前記戦時中の反省の故か、研究会は活発であったに拘らず、機関誌の発行は不定を極め、その打開の爲昭和三十二年十月より筆者がガリ版による『紙芝居』誌の編集制作印刷発送を担当したが、昭和三十四年六月で終刊となり、会は解散、主軸のメンバーは童心社、あい書房へ移行した。紙芝居の特長といわれる「誰でも何時でもどこでも出来る」簡便さが欠点となり、時の政治や社会の動向に流され易く、個人の満足や充足に止り、継続と集積がいつも途中で終るきらいがあった。こうした諸点を、本資料は浮彫として示し、現今の児童文化の諸問題研究の緒を埋蔵している宝という事ができる。例えば平成七(一九九五)年アサヒグラフが突如「戦中戦後紙芝居集成」なる大部の冊子を発行した理由が、筆者には皆目不明だったが、昭和十五年『朝日ニュース紙芝居』なるものが朝日新聞社と日本教育紙芝居協会の提携で出されていた事に遠因があったと知る事が出来た次第、従って児童文化や文芸を越えて、近代児童問題の研究諸子に推薦する次第です。(かこ さとし/児童問題研究・絵本作家)

雑誌『教育紙芝居』・『紙芝居』 ——1938～50年

全十一巻【編集復刻版】

編・解題—浅岡靖央

推 薦—加古里子・加藤理・谷暎子・真鍋昌賢

原本発行—日本教育紙芝居協会→日本紙芝居協会

造 本—A5判・上製函・総約3,700p

価 格—各巻22,000円 揃価格242,000円（配本毎分売可）

編・解題者紹介

1955年大阪府生まれ。1986年明星大学大学院
人文学研究科博士課程（教育学専攻）中退。
専攻は児童文化理論、日本児童文化史。現在、
日本児童教育専門学校専任講師。



近代史、歴史社会学、教育史、児童文化、
戦時期美術史、民俗学、芸能史、口承
文芸研究など
多様な学問分野で共有可能な資料。

【第一回配本】2013年11月 ISBN978-4-907236-12-0

一巻（約296頁）

『教育紙芝居』創刊号～2巻5号（1938年9月～39年5月）

* 附録資料……解題／著者名索引／総目次細目

二巻（約348頁）

『教育紙芝居』2巻7号～3巻6号（1939年7月～40年6月）

※2巻6号、11号は未発見

【第二回配本】2014年3月 ISBN978-4-907236-13-7

三巻（約352頁）

『教育紙芝居』3巻7号～4巻3号（1940年7月～41年3月）

※4巻1号は未発見

四巻（約340頁）

『教育紙芝居』4巻4号～4巻12号（1941年4～12月）

五巻（約356頁）

『紙芝居』5巻1号～5巻4号（1942年1～4月）

【第三回配本】2014年7月 ISBN978-4-907236-14-4

六巻（約358頁）

『紙芝居』5巻5号～5巻8号（1942年5～8月）

七巻（約356頁）

『紙芝居』5巻9号～5巻12号（1942年9～12月）

八巻（約320頁）

『紙芝居』6巻1号～6巻4号（1943年1～4月）

【第四回配本】2014年11月 ISBN978-4-907236-15-1

九巻（約304頁）

『紙芝居』6巻5号～6巻12号（1943年5～12月）

十巻（約360頁）

『紙芝居』7巻1号～7巻10号（1944年1～10月）

十一巻（約286頁）

『紙芝居』復刊1号～復刊8号（1946年11月～50年6月）

※復刊7号は非収録

* 附録資料……「日本教育紙芝居協会関係資料」

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣

〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111
<http://kanazawa-bumpo-kaku.jimdo.com/>

□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください
図版はすべて本書より
価格は税別 044/10/4000